

# 事業の概要について

【実証地域：新地町教育委員会】

## これまでの取組の現状

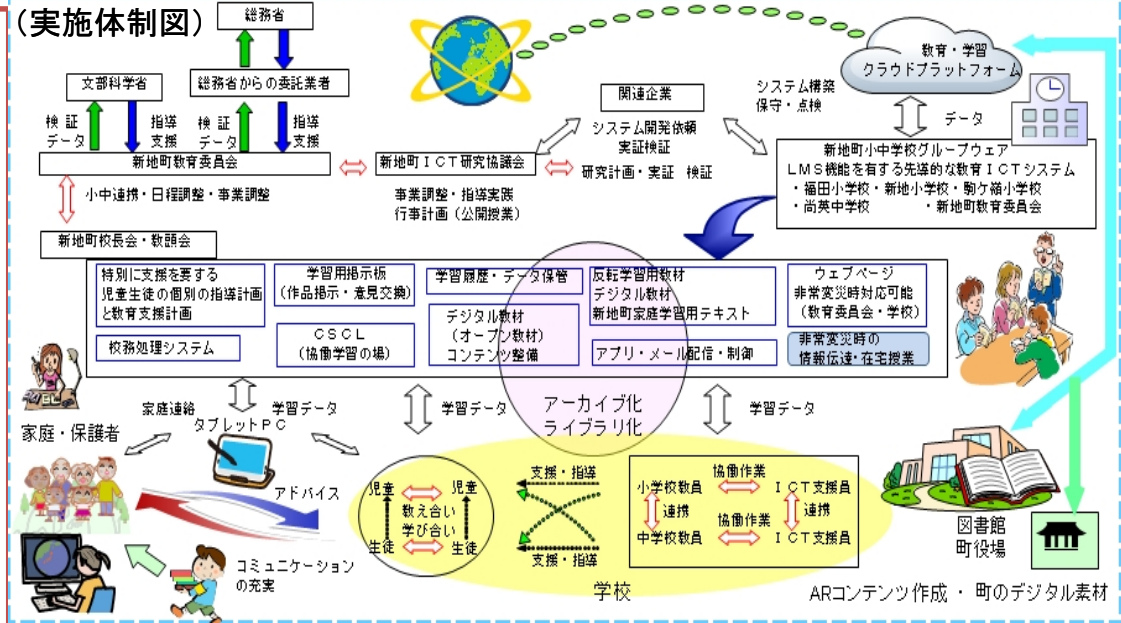
- ・通信環境を利用しないデジタルコンテンツによる家庭学習でのTPC活用
- ・ICT支援員(11名配置)との協働作業による授業構築・デジタル教材作成
- ・ICT活用発表会による教員の授業力向上と他地域への活用事例紹介

## 事業概要

- 新地町ICT研究協議会を中核としたICT教育体制の構築
  - ・ICTグランドデザイン、情報収集、進捗状況確認、評価
- 町内各小中学校を結ぶ共通イントラネット・クラウド環境・LMSの構築
  - ・町内小中学校共通イントラネットによる情報共有
- 学習・教育クラウド・プラットフォームを活用した家庭学習
  - ・反転授業・家庭学習の充実、MOOCs型教材(学校での授業、食育講座、食育講演会)
- クラウドを活用した教員の自作教材・素材の共有
  - ・オープン教材のライブラリ化・アーカイブ化・指導方法の開発
- ICTを活用した児童生徒のケア・不登校時等の教育・学習支援
  - ・テレビ会議システムによる教育相談・授業、学習内容配信・指導助言、連携
- ICTを活用した交流学習
  - ・目的を持った交流学習の確立、指導方法の開発と改善
- LMSとCSCLの活用
  - ・児童生徒管理と学習履歴の管理・活用
- 教職員の研修体制の構築
  - ・ICT活用発表会による指導力向上、先進地域での研修

## これからの課題

- ・家庭学習(反転授業を含む)を意図的・計画的に充実させての学力向上
- ・震災以降の多面的な心のケア、適切な情報モラルの定着、家庭との連携
- ・ICTを活用した授業の指導力向上、他地域への普及、県教委及び地域との連携
- ・児童生徒の学習履歴の積極的活用と一元管理



## 取組の特色(ポイント)

### テーマ「震災を乗り越えるICT活用の先導的学習支援」

#### 概要

- ・OSに依存しないクラウドを活用した学習コンテンツによる家庭学習(反転授業の内容を含む)の充実と学力向上
- ・クラウドを活用したデジタル教材(オープン教材)の共有化とICT授業実践
  - ・新地町作成の学習用教材(小学生用問題集「ちから」、美文朗読等)をデジタルコンテンツ化して活用
- ・ICTを活用しての多面的な心のケアと支援(テレビ会議システム、SNS・・・)
- ・クラウドを活用したLMSによる児童生徒の学習履歴管理と校務支援
  - ・ICTを活用しての非常変災時の早期対応と授業実践
- ・クラウドを活用した子どもたちによるARコンテンツ作成(総合的な学習の時間)と新地町との連携

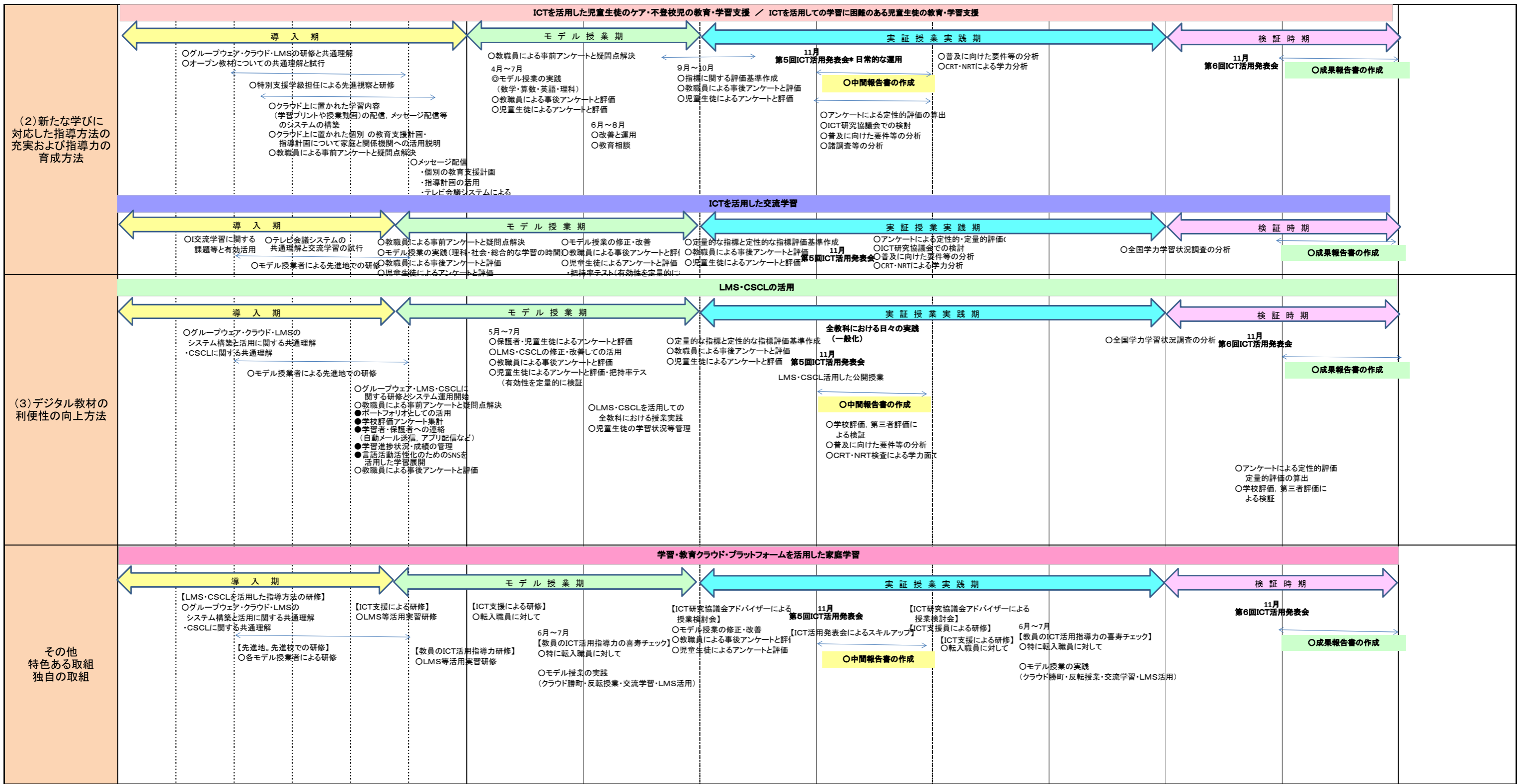
## 本事業で実現する新たな教育体制のビジョン

### 【学校・家庭・地域が連携したICT教育】

- ・OSに依存しない教育クラウドの構築による学校情報の管理・活用(LMSによる児童生徒の学習履歴管理と校務支援による学校情報の一元管理)
- ・ICTを活用した家庭学習の常態化、反転授業の普及、ICT活用による授業の標準化
  - ・総合的な学習におけるARコンテンツの利活用と能動的な地域理解と情報発信
- ・先導的学習支援から個々の児童生徒の能動的学習へ

# 事業スケジュールについて(3年間)

	平成26年度						平成27年度						平成28年度						備考																		
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	上半期			下半期			上半期			下半期																					
(1) 地域における教育体制の構築方法	ICT研究協議会と教育体制の構築(推進体制の構築・ICT環境整備・効果の検証方法等を検討)												ICT研究協議会と教育体制の構築(ICT環境整備・効果の検証方法等を検討)												ICT研究協議会と教育体制の構築(ICT環境整備・効果の検証方法等を検討)												
	導入期						モデル授業期						実証授業実践期						検証時期																		
	10月29日: 第1回ICT研究協議会 11月14日: 第4回ICT活用発表会						2月中旬: 第2回ICT研究協議会 ○デジタル教材・指導方法を継続研究 ○LMS・CSCLを活用した指導方法の研修と実践 ○全教員によるICTの指導力のチェックリスト ○平成26年度の総括と27年度の事業計画の作成						6月中旬: 第1回ICT研究協議会 10月上旬: 第2回ICT研究協議会 11月下旬: 第2回ICT研究協議会 2月中旬: 第3回ICT研究協議会 11月: 第5回ICT活用発表会 ○デジタル教材・指導方法を継続研究 ○LMS・CSCLを活用した指導方法の研修と実践 ○全教員によるICTの指導力のチェックリスト ○平成27年度の総括と28年度の事業計画の作成						6月中旬: 第1回ICT研究協議会 10月上旬: 第2回ICT研究協議会 11月下旬: 第2回ICT研究協議会 2月中旬: 第3回ICT研究協議会 11月: 第6回ICT活用発表会 ○デジタル教材・指導方法を継続研究 ○LMS・CSCLを活用した指導方法の研修と実践 ○全教員によるICTの指導力のチェックリスト ○平成27年度の総括と28年度の事業計画の作成																		
	町内各小中学校キリーブウェア(共通イントラネット)クラウド・LMSの構築																																				
導入期						モデル授業期						実証授業実践期						検証時期																			
導入ソフト・更新機器等環境整備の検討						ソフト・更新機器等の導入とチューニング						10月: 児童生徒、保護者に対するアンケート調査						○アンケートによる定量的 ○普及に向けた要件等の分析																			
○グループウェア・クラウド・LMSの研修と共通理解						○先進地域での研修 ○教職員へのアンケート ○モデル授業						○日々の活用とモデル授業の修正と改善 ○定量的及び定性的な指標評価基準の作成						○中間報告書の作成 ○学校評価・第三者評価による検証																			
児童生徒の学力調査(実証初期実施)						児童生徒の学力調査(実証稼働期)																															
第1回CRT						第1回NRT						第2回CRT						第2回NRT																			
学習・教育プラットフォームを活用した家庭学習																																					
導入期						モデル授業期						実証授業実践期						検証時期																			
○「反転授業」の利点についての共通理解						○教職員による事前アンケートと疑問点解決						9月~10月: 第5回ICT活用発表会 ○モデル授業修正・改善と実施(数学・算数・英語・理科) ○教職員による事後アンケートと評価 ○児童生徒によるアンケートと評価(有効性を定量的に検証) ○実証教科における授業実践(評価は四半期ごとに一度程度)						○普及に向けた要件等の分析 ○CRT・NRTによる学力分析																			
○モデル授業者による先進地での研修						○「反転授業」を実施するためのシステム構築(タブレットPCの持ち帰りの試行・HTML5によるWebサイト構築・MOOCs型システムの構築) ○タブレットPCの持ち帰り(年度末年度始休業中) ○学校と図書館、役場の連携システムについての検討 ○流出した町の文化財施設の復元プロジェクトの素材活用						*日々の授業実践(一般化) ○学校評価実施 ○アンケートによる定量的評価 ○児童生徒によるアンケートと評価・把握(有効性を定量的に検証) ○学校評価、第三者評価による検証						○アンケートによる定量的評価 ○CRT・NRTによる学力分析																			
○中間報告書の作成						○中間報告書の作成						○中間報告書の作成																									
クラウドを活用した教員の自作教材・素材の共有																																					
導入期						モデル授業期						実証授業実践期						検証時期																			
○クラウドを活用した教員の自作教材(デジタル教材)に関する研修と共通理解						○モデル授業の改善と実践(国語・社会・体育・保健体育)						10月: 児童生徒、保護者に対するアンケート調査						○全国学力学習状況調査の分析																			
○グループウェア(クラウド・LMS)のシステム構築						5月: 教職員による事後アンケートと評価						11月: 第6回ICT活用発表会						○中間報告書の作成																			
○グループウェア・クラウド・LMSの研修と共通理解						○児童生徒によるアンケートと評価・保持率テスト(有効性を定量的に検証)						○全教科における授業実践(評価は四半期ごとに一度程度)						○学校評価・第三者評価による検証 ○普及に向けた要件等の分析 ○CRT・NRT検査による学力面																			
○オープン教材についての共通理解と試行						○ICT活用研修 夏季休業中						○全教科における日々の実践(一般化)						○学校評価・第三者評価による検証 ○普及に向けた要件等の分析 ○CRT・NRT検査による学力面																			
○教職員へのアンケート						○モデル授業者による先進地での研修						○定量的及び定性的な指標評価基準の作成 ○教職員による事後アンケートと評価(母集団70人・定性的評価) ○児童生徒によるアンケートと評価・保持率(母集団480人・有効性を定量的に検証)						○中間報告書の作成																			
○モデル授業者による先進地での研修						○モデル授業の実践(国語・社会・体育・保健体育)						○学校評価・第三者評価による検証 ○普及に向けた要件等の分析 ○CRT・NRT検査による学力面						○成果報告書の作成																			
○教職員による事後アンケートと評価						○児童生徒によるアンケートと評価						○学校評価・第三者評価による検証 ○普及に向けた要件等の分析 ○CRT・NRT検査による学力面						○成果報告書の作成																			
○児童生徒によるアンケートと評価						○児童生徒によるアンケートと評価						○学校評価・第三者評価による検証 ○普及に向けた要件等の分析 ○CRT・NRT検査による学力面						○成果報告書の作成																			
(2) 新たな学びに対応した指導方法の充実および指導力の育成方法																																					



# 学力調査・アンケート調査の概要について

実証地域	福島県新地町
------	--------

No.	調査名	調査の概要	対象校・学年	調査の目的	調査の活用方策	備考
1	<p>教研式標準学力検査NRT(Norm Referenced Test)標準学力検査</p> <p>CRT(Criterion Referenced Test)</p>	<p>NRT……相対評価法による検査</p> <p>CRT……絶対評価法による検査</p> <p>(いずれかを2月下旬～3月上旬に実施)</p> <p>小学校 国語、算数、理科、社会</p> <p>中学校 国語、数学、理科、社会、英語</p>	町内4校 全学年	<p>ICTを活用した教育効果の検証に資するため、実証校において、教研式標準学力検査を3年間実施し、データを集計、分析することで、各教科における実証校児童生徒の客観的な学力・学習状況を把握し、一人一台の情報端末、電子黒板等のICT機器・教材活用による効果を定量的に検証する。</p> <p>○学力状況について、全国基準に照らして客観的に児童生徒個々と学校全体の状況を把握する。</p> <p>○全領域における指導内容の実現状況を確認するための客観的な資料とする。</p> <p>○指導要録「観点別学習状況」「評定」に沿った資料を得ることで次年度の事業に反映させる。</p> <p>○前年度のデータと比較、考察することで事業の評価と個々の変容を捉える。</p>	<p>教研式知能検査との相関利用によって、アンダーアチーバーやオーバーアチーバーを確認し、個々に対応する個人内評価としても活用する。本事業実施前と実施後の比較をすることで学習面における総合的な評価をする。</p>	児童生徒対象
2	<p>ICT活用指導力の基準(チェックリスト)の実施</p> <p>「ICT支援員 ループリック」の活用</p>	<p>教員とICT支援員のICT教育に関するスキル向上を年二回チェックして、状況や変容について確認する。</p> <p>第一回 5月実施</p> <p>第二回 3月実施</p>	町内4校 全学年	<p>事業を支える教員のICTスキルについて、5つの観点から個々の状況について自己評価をし、次年度の事業推進に資する。</p> <p>○各学校ごとに結果をまとめ、分析し、評価をする。</p> <p>○調査結果を検証し、次年度以降の事業推進に資する。評価が低い項目については、研修等を行い改善を図る。</p> <p>○ICT支援員の資質能力のステージを確認し、目標を設定する。さらにその後の研修受講や業務経験を積むことで、より高いステージに到達したことを確認する</p>	<p>「A教材研究・指導の準備・評価などにICTを活用する能力」、「B授業中にICTを活用して指導する能力」、「C児童(生徒)のICT活用を指導する能力」、「D情報モラルなどを指導する能力」、「E校務にICTを活用する能力」について客観的に自己の状況を確認し、以降の取り組みの改善資料とする。また、全体的なデータについては事業評価の要素とする。</p>	教職員対象
3	学校評価・外部評価	<p>学校評価</p> <p>学校評価(児童生徒、教職員)については12月に実施し、1月までに評価結果のとりまとめをする。</p> <p>学校関係者評価</p> <p>学校関係者評価(保護者対象)については12月に実施し、1月までに評価結果のとりまとめをする。</p> <p>学校行政外部評価</p> <p>外部評価(定められたメンバーによる)については、学校評価と学校関係者評価の結果を受けてとりまとめをし、2月に実施する。</p>	町内4校 全学年	<p>○児童生徒に対して、ICT機器・教材活用による効果を定性的・定量的に検証する。</p> <p>○保護者に対して、事業の取り組みがどのように受け取られているか定性的・定量的に検証する。</p> <p>○学校評価と学校関係者評価の結果を受けて、事業の状況について、客観的に検証し、次年度以降の事業展開に資する。</p>	<p>事業の実施状況について、児童生徒の立場、保護者としての立場から評価したものをとりまとめ、事業の目標や取組等の達成状況を明らかにして、その結果をもとに次年度以降のより良い事業展開に資する。</p>	児童生徒 保護者 町内外有識者
4	その他の評価	<p>●全国学力量学習状況調査</p> <p>○ICT活用発表会に関するアンケート</p> <p>◎本町の実践する事業の柱(A～H)についての関係者によるアンケート</p> <p>☆モデル授業後のアンケート(把持テスト等含む)</p>	町内4校 全学年	<p>●意識調査を含めて多面的に事業効果を定量的に検証する。</p> <p>○来場者による授業や取り組みの様子の評価を定性・定量的に分析し検証する。</p> <p>◎それぞれの事業主担当を決めて、部会形式とし、事業の評価を行う。</p> <p>☆モデル授業の子どもたちによる評価を行い、定性・定量的に検証する。</p>	<p>個々の事業の柱(A～H)の展開状況についてPDCAを活かして、効果的に進展するようはたらきかけると同時に、事業評価の要素とする。</p>	児童生徒 教職員 来場者等